



震災復興の拠点に 全壊のカトリック輪島教会、 再建 献堂式ミサで新たな一歩

2024年1月1日の能登半島地震で被災し、建物が全壊した石川県輪島市の海の星の聖母カトリック輪島教会が再建された。9月27日、真新しい聖堂で献堂式ミサが行われ、輪島教会は奥能登の宣教師牧へ新たな一歩を踏み出した。教会建物は地震の復興支援に取り組む「カリタスのサポートセンター」の滞在拠点にもなり、期待される。

献堂式ミサは、カトリック名古屋教区の松浦悟郎司教が主司式を務め、輪島教会で長年司牧を担ってきた男子跣足カメル修道会の今泉健総長代理ら、合わせて10人の司祭によって進められた。輪島教会の信徒をはじめ、北陸三県の信徒、修道女ら約80人が参列し、まず聖堂に聖水、聖香油が注がれてミサは始まった。

松浦司教は説教で「地震、そして洪水で生活が破壊されたが、輪島教会は人的、精神的な大きな支援をいただいて再建することができた。今年は聖年である。扉に入り、出ていく意義をあらためてかみしめ、歩んでいきましょう」と語った。

ミサの前に輪島教会に併設された海の星幼稚園の園児9人がお祝いの歌を披露した。ミサ後は聖堂前広場で祝賀会が開かれ、出席者が交流を深めた。

建て替えられた輪島教会は木造二階建て、延べ167平方メートル。一階に聖堂、香部屋、事務室、二階は「カリタスのサポートセンター」の滞在拠点になるように部屋が配置されている。

再建に当たって、被災する前、聖堂にあった十字架、聖母像が修復され、設置された。破損を免れたステンドグラス4枚が聖堂の窓に取り付けられた。オルガンも修理されて聖堂に戻ってきた。

海の星の聖母カトリック輪島教会は1965年4月、カルメル会によって建設された。同教会は今年、創設から献堂60周年を迎えた。また、教会付属の海の星幼稚園も教会と同時に誕生した。

(文責 桑島 基生)

第460号

2025年 11月

〒461-0004
名古屋市東区葵2丁目6-35
カトリック名古屋教区広報部
電話 (052) 935-2223
FAX (052) 935-2254
news@nagoya.catholic.jp
印刷所 株式会社 荒川印刷
毎月第1日曜日発行



2025年 通常聖年
希望の巡礼者となつて
聖年をもに歩みましょう

教区八事霊園合同埋葬式・追悼ミサ



9月23日(火)午後1時より、八事霊園において「合同埋葬式・追悼ミサ」が行われ、晴天に恵まれる中、約100名が参列した。

午後1時には合葬墓において、合同埋葬式が太田実神父の司式によって行われ、26体の遺骨を安置した。続いて、早川和彦助祭と光山相泰助祭によって、墓地内の各墓石に灌水が行われた。その間、参列者全員でロザリオの祈りを唱え、亡くなられた方々の霊魂の安息を祈願し、聖母マリアのとりつぎを願った。

その後、午後2時より追悼ミサが松浦悟郎司教主司式、太田実神父共同司式で行われ、説教で松浦司教は、「親しい人たちが、大切な人たちに先立たれ、死別することは、



この世ではもう彼らを見ることができなくなり、私たちがとって大きな喪失感があり、大変悲しいことであるが、私たちは、このミサを捧げることによって、亡くなって、今は天にある人々とともに同じ主の食卓に与ることができ、そこでいつの日か彼らと再び会うことができるという大きな希望に繋がると述べた。

なお、今後、10月12日(日)には午後2時より東八事霊園第一墓地で行われ、また11月2日(日)には午後2時より東八事霊園第二墓地において合同追悼ミサが行われる予定である。

北陸ブロック金沢発名古屋巡礼バスツアー



2025年10月4日(土) 聖年の巡礼バスツアーが行われた。このツアーは、「希望の巡礼者」と名付けられ、前教皇フランシスコの聖年の呼びかけに応え、教区福音化養成委員会が北陸ブロックのために企画した巡礼バスツアーである。

参加者は20名。金沢教会を朝8時に出発し名古屋に入り、始めに尋ねたのは、名古屋教区のカテドラル(聖ペトロ・聖パウロ司教座大聖堂)である。昼食後、聖年の扉の前で「聖年の祈り」をささげ、荘厳なパイプオルガンの音色に迎えられるが、聖堂内を見学した。

次に訪れた栄国寺では、施設内の切支丹遺跡博物館、顕彰碑(毎年10月にこの碑の前で殉教者祭ミサが行われている)を見学し、ご住職からこの地で殉教した多くの切支丹とお寺のかかわり、歴史について伺った。ツアー最終の巡礼地、主税町教会は名古屋教区で最も古いカトリック教会である。聖堂裏の緑豊かな庭の奥に日本国内では二番目に古いルドルの洞窟がある。主税町教会は現在小教区の教会ではなく名古屋教区の記念聖堂となっているが、布池教会が設立されるまでは、名古屋知牧区長座教会であった。



(2面に続く)

教区ホームページ

福音のひびき

11月の説教者

- 2日 死者の日
根田 健二
(聖心布教会)
- 9日 ラテラノ教会の献堂
グエン・ニヤット・パン
(神言修道会)
- 16日 年間第33主日
キシャケル・ビジュ・アウグスティン
(南山教会)
- 23日 王であるキリスト
今泉 健
(カルメル会)

「戦後80年 平和を祈ろう、 学習しよう、語り継ごう」 平和旬間行事



2025年岡崎教会で行った平和旬間行事を紹介する。

1. 那覇教区で行われた、6月23日「沖縄・慰霊の日」那覇教区平和巡礼、平和の集いのために5月1日～5月31日まで平和のメッセージ入り折り鶴を教会の皆さんと折りをこめて折り、千羽鶴を魂の塔へ捧げた。

2. 7月26日侍者の研修、平和学習を行った。参加者は子供13名、大人18名で、モルク神父様と合わせて32名が参加した。神父様からの主日のミサの典礼を学んだ。

侍者の所作や、ミサで使われる祭具の名称をクイズ形式で出題してもらったりして学んだ。

今まで侍者をやった事

がない子供たちも『今度
は侍者をやりたい！』と
うれしい声が上がった。

そして広島出身で被爆
二世の信徒が爆心地から
2キロのところで原爆被
害にあった父の話をし
た。その後、原爆症によ
る白血病でわずか12歳で
亡くなった少女の紙芝居
「原爆の子、さだ子の願
い」を鑑賞した子供たち
に感じたことを一人ひと
り発表してもらった。

その内容をまとめて8
月9日三河ブロック平和
ミサで共同祈願として発
表した。

その後、教会のお父さ
んお母さん達の心のこ
もった、お・も・て・な・し。
お楽しみ会のバーベ
キューに舌鼓を打った。
その日はとても天気が



良く、お腹いっぱいにな
った子供たちが庭で駆
け回り楽しく過ごした。

3. 戦後80年にあたって、
実際の戦争体験をした語
り部はどんどん減って来
た。私達にできることは
何だろうか？まずは知るこ
と。

そこでこの夏封切りさ
れた太平洋戦争の映画を

教会の信徒にお知らせ
し、皆さんに3本紹介し
た。

私達岡崎教会一同もこ
の節目の戦後80年、過
去を忘れず、未来に平和
の灯を絶やさぬよう願
い、互いに伝えあってい
ける共同体として歩ん
でいきたいと思う。

（文責 森本裕明）

秋元伸介助祭の招きの
祈りに始まり、神馬氏、
松浦信司司教の挨拶があ
り、松浦司教からは典
礼聖歌アンサンブルの紹介
と今回の研修会に至るい
きさつの説明があった。

研修は芹澤氏がミサの
流れに沿って進め、通常
のミサの式次第の「入祭
の歌はなぜ歌うのか？」
に始まり、具体的な場面
ごとに歌われる典礼聖歌
の意義や心構えについて
解説した。話は所作や歌
のベースにも及び、歌う
奉仕者のことだけではな
く、聞く人の姿勢につい
ての助言もあり、聖書朗
読や答唱詩編などは「聖
書と典礼」などのテキス
トに目を落とすのではな
く耳でしっかり聞いて味
わい、目は「神の言葉」
を告げ、あるいは歌う人
の方を見つめることが肝
要とのあり方が伝えられ
た。

歌う際の助言として
「心のありよう」につい
て触れ、感謝の賛歌を歌
う時は祭壇の上の聖体を
見つめ、「感謝の心」を
心の奥底から込めて歌う
ことが勧められた。講話
に続き歌唱指導が実践さ
れた。今回、実践的に
扱ったのは聖金曜日に歌
われる十字架称賛に係る
歌だった。歌う前に聖金
曜日の典礼すなわち「主
の受難の典礼」の位置づ
けに触れ、「主の晩さん
のミサを復活徹夜祭につ
なく」過ぎ越しの意味が
あることが再確認され
た。聖金曜日に読まれる
「受難の朗読」には、C、
十、A、Sの記号が現在
では役割分担の印として
扱われているが、もとも
とは読み方の指示だっ
たなどの豆知識
も織り交ぜつ
つ、充実した講
話だった。秋元
助祭、松浦司教
の協力のもと盛
式共同祈願、十
字架の礼拝が歌
われた。芹澤氏
は、典礼聖歌は
「神の言葉」を
歌うのだからそ
れにふさわしい
「深みのある声」



（続き）
名、九里彰神父、浅井太
郎神父、ノ・ヒチヨル神
父、ヨハネス・ヴィアン
ネー・ラマ神父による共
同司式で、ちょうど主税
町教会で行われていたカ
ノッサ会第三会の集会参
加者も加わって、信徒30
名ほどが参加してミサが
捧げられた。

およそ12時間にわたる
巡礼の旅であったが、終
始穏やかな雰囲気、和
やかな分かち合いが続い
ていた。交通事情により
30分程度予定が押してい
たが、金沢到着は予定通
り20時。旅の無事と巡礼
の豊かなお恵みを神様に
感謝！

（文責 教区福音化養成
委員会 片桐厚子）

猛暑の続く8月30日
「若者気候訴訟」原告の
安部美祐実さん、クール
クライメイトあいち呼び
かけ人の尾形慶子さんの
講演が福音館で行われ
た。

2024年8月、10代
の16名の若者が原
告となり、気候に悪影響
を与える事業活動は許さ
れないと、CO₂排出削減を
求め電力トップ10社（エ
ネルギー起源のCO₂排出量
の32・8%を排出）を名
古屋地裁に提訴した。

安部さんは小学校の先
生。大学生の時、姉の「も
う肉は食べない」発言を

発端に、畜産由来の温室
効果ガスの排出量が世界
の総排出量の14・5%を
占めている事を知り、こ
の事が環境活動のきっか
けになった。

現在、世界の平均気温
は産業革命前と比べて平
均1・2℃上昇してい
る。これを体温に置き換
え1・2℃上がる事を考
えると地球の温暖化が理
解できる。

パリ協定（2015
COP21）では1・5℃
に抑えることを世界で合
意した。

2023年IPCC
（世界気象機関及び国連

環境計画により1988
年設立された政府間組
織）は人間活動が地球温
暖化を引き起こしている
と警告。このまま何もし
なければ、2100年に
は世界の平均気温が2・
6～4・8℃上昇し、海
面水位は60m上昇する。
日本を含むG7各国は2
050年までにCO₂実質0
の達成を目指している
が、英国は2024年、
再生可能エネルギーの普
及によってCO₂を最も多く
排する石炭火力を全廃し
た。

裁判で被告（電力10社）
は、民法の不法行為では
ない、権利侵害はしてい
ない、相当因果関係は認
められない、CO₂排出削減
1・5℃に法的義務はな
いと反論している。

猛暑、豪雨、干ばつ等、
世界で起きている異常気
象。子供は外遊びが出来
ない、屋外での労働条件
の悪化、食料危機等、子
供や若者ほど被害を受け
る気候変動は、1・5℃
目標を達成出来るかの瀬
戸際にある。国や行政の
待ったなしの対応が必要
だ。家の断熱、太陽光パ
ネルの設置等、国民の意
思を政府に示す行動も大
切だ。

「気候危機のない未来
がほしい」と立ち上がった
勇氣ある若者達。その
司法判断に注目したい。
（次世代を考える会
西谷恭子）

「歌は、 祈り」 2025年度第2回典礼研修会

9月15日（月・敬老の
日）、布池教会にて教区
典礼研修会が典礼聖歌を
扱い「歌は、祈り」をテ
マとして神馬宏美氏と活
動を共にする「典礼聖歌
アンサンブル」を招いて
研修とミニコンサート
内容で開催された。

典礼聖歌アンサンブル
は1997年に創立さ
れ、故高田三郎氏によつ
て、日本人のための祈り
の歌として作曲された典
礼聖歌の普及に役立ちた
いという願いから、作曲
者から直接指導を受けた
者が中心となり、その「作
曲者の意思」をできるだ

け忠実に反映させた演奏
を目指して、毎月2回の
練習を重ねている。現在
団員数30名。主な活動と
して教会での聖歌奉仕、
演奏会、ミサの聖歌指導、
オルガン奉仕者のための
研修会、CD録音と頒布
などを行っている。

典礼聖歌アンサンブル
からは団長の神馬氏、指
揮者の芹澤教高氏、オル
ガニストの芹澤紀子氏
を含む26名の来名があ
り、研修参加者は120名に
上った。

秋元伸介助祭の招きの
祈りに始まり、神馬氏、
松浦信司司教の挨拶があ
り、松浦司教からは典
礼聖歌アンサンブルの紹介
と今回の研修会に至るい
きさつの説明があった。

研修は芹澤氏がミサの
流れに沿って進め、通常
のミサの式次第の「入祭
の歌はなぜ歌うのか？」
に始まり、具体的な場面
ごとに歌われる典礼聖歌
の意義や心構えについて
解説した。話は所作や歌
のベースにも及び、歌う
奉仕者のことだけではな
く、聞く人の姿勢につい
ての助言もあり、聖書朗
読や答唱詩編などは「聖
書と典礼」などのテキス
トに目を落とすのではな
く耳でしっかり聞いて味
わい、目は「神の言葉」
を告げ、あるいは歌う人
の方を見つめることが肝
要とのあり方が伝えられ
た。

歌う際の助言として
「心のありよう」につい
て触れ、感謝の賛歌を歌
う時は祭壇の上の聖体を
見つめ、「感謝の心」を
心の奥底から込めて歌う
ことが勧められた。講話
に続き歌唱指導が実践さ
れた。今回、実践的に
扱ったのは聖金曜日に歌
われる十字架称賛に係る
歌だった。歌う前に聖金
曜日の典礼すなわち「主
の受難の典礼」の位置づ
けに触れ、「主の晩さん
のミサを復活徹夜祭につ
なく」過ぎ越しの意味が
あることが再確認され
た。聖金曜日に読まれる
「受難の朗読」には、C、
十、A、Sの記号が現在
では役割分担の印として
扱われているが、もとも
とは読み方の指示だっ
たなどの豆知識
も織り交ぜつ
つ、充実した講
話だった。秋元
助祭、松浦司教
の協力のもと盛
式共同祈願、十
字架の礼拝が歌
われた。芹澤氏
は、典礼聖歌は
「神の言葉」を
歌うのだからそ
れにふさわしい
「深みのある声」



今年度第二回 教区宣教司牧評議会が行われる



10月5日(日)午後2時より5時まで、教区センター12階の大会議室において第二回教区宣教司牧評議会が行われ、28名の出席、5名の欠席であった。

報告・確認事項は以下のとおりである。

最初にオプザーバー参加の青年委員会の梁良我氏より、2025年聖年「青年の祝祭」に7月28日から8月3日まで名古屋教区から2名が参加したことが報告された。

次にカリタスのとサポートセンター長の片岡義博神父より近況報告があり、再建された輪島教会のこと、公費解体作業前の家屋内の片づけボランティアのことに言及した。詳細はボランティア募集ポスターを参照のこと。

その後、各ブロックからの活動状況報告があり、ブロック単位、小教区ごとの7、8月の平和旬間の活動などが紹介された。8月10日と11日に名古屋地区と北陸地区で行われた教区平和旬間行事の報告もあり、名古屋地区の布池教会では原爆被害のDVD「にんげんをかえせ」の鑑賞と松浦悟郎司教司式の平和祈願ミサがあり、いずれも予想を上回る参加があり、北陸地区は福井教会で同

じDVD鑑賞と松浦司教司式のミサを行い、外国籍信徒も多数参加。

続いて、今年度の予算中間報告と来年度の予算請求について補正予算の説明報告があり、補正予算は承認。

その他、殉教者祭(栄国寺)台風の発生予報状況に応じて対応、開催変更はホームページから。敬老の日についてはカードを28名に贈ったこと。

来年度の行事予定についての年間スケジュール作成の協力願ひ、カ障連より2026年11月14日、15日カ障連名古屋全国大会のため、実行委員会キャラバン隊による小教区訪問をして支援、協力感謝。引き続き、訪問したいとのこと。

審議事項は以下のとおりである。

(1) 新成人とともに祝う「教区新年の集い」については、担当は城南ブロックなので、どのような集い(ミサ後の茶話会)にするか、事務局と相談して決める。青年委員会に協力依頼をする場合は早めに行うことが決定。

(2) 通常聖年閉幕についての司教提案。パチカンでは2026年1月6日の主の公現の主日に

聖年を閉幕するが、各国では今年の12月28日(日)聖家族の主日に閉幕することになっている。名古屋教区ではどうするかについて、昨年の開幕ミサと同様に聖家族の主日にカテドラルで、当日布池教会のミサ(午前9時半)を閉幕ミサとし、各小教区ではそれぞれの主日のミサの中で同じ意向でミサをする。そのミサの中で、全小教区が共通のメッセージか祈りなどをすることにする。詳細は決まり次第、各小教区に連絡。

(3) ダイアモンド・金・銀祝の集いについて(2026年3月20日濃尾ブロック担当)

その日に、召命の集いをしたいという修女連の提案について、ミサは午前11時からとなっているので、その前に修女連中心に子どもや青年を対象に召命の集いをするには賛同を得た。まずは実施し、今後春分の日を召命の日にするかどうかは検討。

(4) 2027年はダイアモンド・金・銀祝を予定している春分の日と聖香油ミサが近いがどうするかについては、ダイアモンド・金・銀祝と聖香油ミサは意向が異なり、重なる人もいるが主

な参加者は別なので、予定通り別日に。

(5) 教区合同堅信式をカテドラル布池教会で行なうことについての提案。司教は毎年、聖霊降臨の主日にカテドラルで堅信式を行う。その日に教区としての堅信式を布池教会で実施したい。そこにある2つの形は、

①復活祭に信者になった人が、その小教区の所屬だけでなく、名古屋教区のメンバーとして共に歩むしるしとして布池教会での教区堅信式に参加。

②新受洗者ではないが、堅信を受けていない人は、この機会に他の小教区の人たちと堅信を受けることができ、また、小教区で機会が少ないため待たなければいけない人たちもこの機会を利用することができる。

結論として、松浦司教提案に出席者はほぼ全員が賛同。今後の課題として、会場となる布池教会の合意と協力、実際の受け入れと準備は誰がするか、北陸ブロックなど遠方からの参加者に開始時間、交通費などの問題をどうするかなどを検討する。

以上が今回の評議会の概要である。

カリタスのと サポートセンター近況報告

この紙面上記に掲載した第二回教区宣教司牧評議会、カリタスのとサポートセンター長の片岡義博神父からあった能登被災地の近況報告を紹介する。

2024年1月1日の能登半島震災から1年9ヶ月たつて、関心が段々と薄くなっている。亡くなられた方は672名、その内災害関連死は44名と増え続けている。

災害が大きかった奥能登地域の公費解体は、8、9割進んできているが、震源から少し離れた七尾市は未だに6割程度にとどまっているとのこと。

そして、公費解体にあたっては、まず家の家財等を基本的に出さなければならぬが、家主の大

半が高齢者であるために、片付けるボランティアアさんの手が必要になる。夏休みには学生が多く参加してにぎやかだったが、いまはほかの団体を含め、人の手が非常に不足している現状を片岡神父は訴えた。

9月27日に輪島教会が献堂され、今後はこれまでの七尾に加えて、輪島にもボランティアベースを構え、2拠点で活動を行っていく。ボランティア

ア募集を呼びかけるポスターを作製したので、各小教区などで掲示してほしい。また、新しく制作されたウェブサイトにからはボランティアの空き状況も確認でき、そこから申込も可能。(記載されているポスターを参照のこと。)

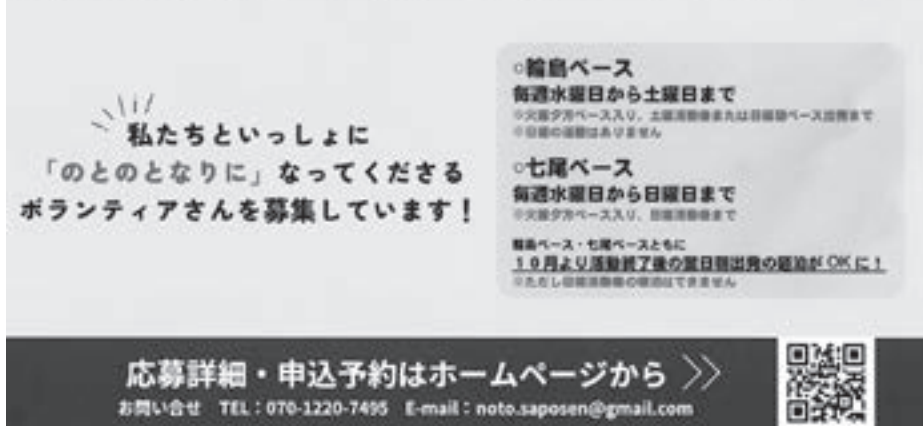
また、ボランティア以外での能登へのつながりを紹介し、再建された輪島教会では、これまで幼稚園のホールを借りて月2回おこなってきたミサを、10月から毎週日曜日のミサを再開することから、輪島を訪れ、信者さんといっしょにミサに参加したり、被災地を視察する巡礼を提案。(その場合、事前に連絡をいただくと助かる。)

それ以外にも、震災時に火災などで大きな被害をうけた輪島朝市の支援として、お店から「乾きもの」(1袋500円)を仕入れていただき、バザーなどで販売する支援や、サポートセンターが公募した新しいキャッチコピー「のとのとなり」に合わせたロゴも製作し、Tシャツや手ぬぐいを販売(10月下旬頃より)するので、今後の活動継続のために協力を求めた。また、カリタスのとサポートセンターはカリタスジャパンに寄せられる募金で運営が成り立っているが、長く支援が続いているだけに、今後も継続しての募金支援に協力を求めた。これらの情報は、サポートセンターのウェブサイトでも紹介している。



カリタスのとサポートセンター ボランティア募集

2025年度後編(10月~3月)



◎輪島ベース
毎週水曜日から土曜日まで
※火曜夕方ベース入り、土曜活動後は日曜ベース出席まで
※自給の食糧はありません

◎七尾ベース
毎週水曜日から日曜日まで
※火曜夕方ベース入り、日曜活動後まで

輪島ベース・七尾ベースともに
10月より活動終了後の翌日朝出発の運動がOKに！
※ただし自給食の準備は必要です

私たちといっしょに
「のとのとなり」になってくださる
ボランティアさんを募集しています！

応募詳細・申込予約はホームページから >>>
お問い合わせ TEL: 070-1220-7495 E-mail: noto.saposen@gmail.com





（祭）＝祭日、（祝）＝祝日、（記）＝記念日	
11月の教会暦	
1日(土)	諸聖人（祭）
2日(日)	死者の日（年間第31週）
4日(火)	聖カロロ・ポロメオ司教（記）
9日(日)	ラテラノ教会の献堂（祝）（年間第32週）
10日(月)	聖大レオ教皇教会博士（記）
11日(火)	聖マルティノ（トゥールの）司教（記）
12日(水)	聖ヨサファト司教殉教者（記）
16日(日)	年間第33主日
貧しい人のための世界祈願日	
聖書週間（～23日まで）	
17日(月)	聖エリザベト（ハンガリーの）修道女（記）
21日(金)	聖母マリアの奉獻（記）
22日(土)	聖チエチリアおとめ殉教者（記）
23日(日)	王であるキリスト（祭）（年間第34週）
世界青年の日	
24日(月)	聖アンデレ・ジュン・ラク司祭と同志殉教者（記）
30日(日)	待降節第1主日

12月の主な教会暦（主日・祭日など）	
7日(日)	待降節第2主日
8日(月)	宣教地召命促進の日（献金）
14日(日)	待降節第3主日
21日(日)	待降節第4主日
25日(木)	主の降誕（祭）
28日(日)	聖家族（祝）
16日(火)	カリタスのとサポートセン
13日(土)	殉教者委定例会／典礼委員会コアミーティング／信徒協役員会
11日(木)	顧問会＊
9日(火)	樹の会／正義と平和委定例会
7日(日)	半田教会堅信式＊
30日(日)	日比野教会堅信式＊
27日(木)	月集＊
23日(日)	豊橋教会堅信式＊／北陸B会議
18日(火)	城北B会議／城南B会議
16日(日)	カトリック看護協会例会
15日(土)	レジオ・マリエ「名古屋クリア」
13日(木)	顧問会＊
11日(火)	難民移住移動者委員会／樹の会
9日(日)	多治見教会堅信式＊／城東B会議／三河B会議・司祭会議
8日(土)	典礼委全体会議／殉教者委定例会／信徒協（チャリティーコンサート）
3日(月)	祝殉教者委「美濃・尾張キリシタン顕彰ミサ・講演会」（美濃加茂教会）
2日(日)	美濃加茂教会堅信式＊／教区東八事第二墓地合同追悼ミサ
1日(土)	信徒協役員会／正義と平和委「学習会・定例会」

685件 38,048,661円

目標額 40,000,000円 (2025年9月末日現在)

建設費の返済に

協力を

郵便振替 00810-5-50605

加入者名 カトリック名古屋教区

通信欄に「福信館建設」と必ずご記入ください。

福信館

達成率 約95.1%

告知板

◆11月の吹き出し

木6日布池、13日ひまわり・南山・樹の会、20日聖霊・南山・樹の会、27日城北橋

金7日喜望の会、14日南山、21日布池、28日恵方町

タリ運営委員会＊／カトリック看護協会例会	
17日(水)	能登視察＊
20日(土)	レジオ・マリエ「名古屋クリア」
21日(日)	南山教会献堂75周年記念ミサ＊
26日(金)	教区司祭・助祭の集い、テ・デウム＊／教区事務所仕事納め
11月	
教区行事以外の松浦司教予定	
17日(月)～20日(木)	日韓司教交流会

大切な家族・友人のために

ささげる追悼ミサ

日 時 2025年11月15日(土) 10:00

場 所 カトリック五反城教会

司 式 五反城主任 アルディー・ハヨン神父
山野聖嗣神父（カリタス福祉委員会委員長）

その他 平服でお越しください。遺影台を用意しますので写真、思い出の品などお持ち下さい。

主 催 名古屋教区カリタス福祉委員会
TEL 052-852-1426

チャリティーコンサート

ミャンマー地震被害支援のため

日 時 2025年12月6日(土) 13:30（開場13:00）

場 所 カトリック瀬戸教会 聖堂 瀬戸市苗場町66

アクセス 名鉄瀬戸線 新瀬戸駅より徒歩5分
愛知環状線 瀬戸市駅より徒歩5分

参加費 無料（自由献金をお願いします）

プログラム オルガン・ホルン・弦楽器演奏合唱隊・みんなで歌おう・お楽しみタイム・ミャンマータイム その他

主 催 瀬戸・高蔵寺・南山教会有志

問 合 せ 山本雅徳 TEL 0561-82-7340
川口紗弥佳 080-5106-0127

〈カルメル修道会日比野修道院、講座、黙想企画〉

【静修の集い】

日 時 2025年12月6日(土) 10:00～15:00

講話担当 今泉健神父（カルメル修道会）

テーマ 聖テレーズー暗闇の中での信頼ー

スケジュール 講話①、ご聖体顕示、昼食
講話②、ミサ、茶話会

参加費 無料（自由献金をお願い致します）。
どなたでもご自由にご参加ください。

持ち物 昼食（各自持参）

問 合 せ 日比野修道院（052-671-1003）

名古屋教区 社会活動ネットワーク

おかざき九条の会 戦後80年企画

ドキュメンタリー映画 「豹変と沈黙」

日 時 11月15日(土) 開演14:00（開場13:30）

会 場 せきれいホール
(☎0564-25-0511 岡崎市朝日町3-36-5)

概 要 映画上映会
日記でたどる沖縄戦への道
～苦難の道をたどった日本兵たち 戦中日記が明かす驚くべき事実とは～

参加費 前売り 800円 当日 1000円
障害者・学生は無料（事前予約）

申込み・問合せ ☎090-9172-4448 神谷（かみたに）

主 催 おかざき九条の会

クリスマスを祝う祈りと歌の集い

～主税町で歌おうクリスマス～

日 時 2025年12月6日(土)
13:30開場 14:00開演 15:30終演予定

会 場 主税町記念聖堂
〒461-0018 愛知県名古屋市中区主税町3丁目33

アクセス 地下鉄名城線「名古屋城」駅下車。徒歩15分
市バス「清水口」「白壁」バス停より徒歩5分

出演者 独唱者2名、管楽アンサンブル6名 (Fl. 2Cl. BsCl. Trb. Eu.)、デージー（女性合唱数名）、指揮者1名（いずれも予定）

特別出演 光山相泰助祭

入 場 料 無料（会場での自由献金あり）

主 催 音楽と祈りの会

責任者 石原立教 (090-2445-3736)
au332059@gmail.com

連続講話（全5回）

ローマ・カトリックにおけるマリア論

～マリア教義に潜む諸観念を分かりやすく解説～

講話 師 ヴァルギース・レジモン S.V.D.
通称レジ神父、現在南山大学で神学を教える。
カトリック東海教会助任司祭。

場 所 川名山研修の家
〒444-0827 名古屋市昭和区川名山町56
（旧川名山聖霊修道院、聖霊病院裏）

日時とテーマ

2025年11月15日(土) 第1回「ローマカトリック教会におけるマリアの位置づけ」
10:00～（いつくしみの祈り）
10:45～ 講話

12月13日(土) 第2回「神の母」であるマリア

2026年1月10日(土) 第3回「罪なき方マリア」

2月14日(土) 第4回「マリアの『被昇天』」

3月14日(土) 第5回「恵みの媒介者なるマリア」

主 催 いつくしみの会

問合せ 相澤 090-1726-5627

第2駐車場へのご案内

会場は○の部分